



たんしゅういくの ぎんざんごんどうなまりかせぎかた す
「但州生野銀山銀銅鉛 稼方図」



佐渡金銀山で鉱石の採掘に使われた道具類



佐渡金銀山が描かれた錦絵「諸国金山ノ図」
* 錦絵・絵巻は期間中展示替えがあります。

貨幣博物館企画展

「フカボリ！ 金銀山×お金の世界―絵巻でよみとく金銀山のいとなみ―」
開催中！

二〇二三年三月六日(日)まで

▼昔から誰もが魅力を感じ、装飾やお金に用いてきた金と銀。金銀のお金は、その材料を産み出した金銀山の開発の歴史と密接な関わりがあります。日本では、一六世紀半ば以降各地で盛んに行われた金銀山の開発を契機として、金貨や銀貨がつくられました。

▼本企画展では、一六〜一九世紀に掘られていた金銀山、そして

て金銀をもとにつくられたお金

について、絵巻などの絵画資料、金銀の採掘に使われた道具類とともに、「フカボリ」します。特に絵巻の世界には、華やかな金銀の裏側で、鉱石から金銀を採り出すまでの当時の苦勞と技術が「ギョツ」と詰まっています。

金銀山のいとなみを通して、お金とその材料を生み出す人々の知恵と努力を感じていただければ幸いです。

【入館料】無料

【休館日】月曜日（ただし祝日は開館）、年末年始（十二月二十九日〜一月四日）、二〇二三年二月十九日

【開館時間】午前九時三十分〜午後四時三十分（入館は午後四時

時まで）

※最新の情報は貨幣博物館ホームページをご覧ください。

【所在地】東京都中央区日本橋本石町一―三―一

【お問い合わせ先】

金融研究所貨幣博物館
〇三―三二七―三〇三七



気候変動に関する日本銀行の取り組み方針について

▼日本銀行は、これまでも中央銀行の立場から、金融機関との対話や国際的な議論への参画を通じて、気候変動への取り組みを進めてきました。また、組織体制面では、行内組織である「気候連携ハブ」を立ち上げるなど、気候変動に関する体制の強化を図ってきました。

最近では、政府や企業をはじめ、内外の関係者による気候変動に関する取り組みがさらに積極化しています。日本銀行としても、物価の安定と金融システムの安定という日本銀行の使命



取り組み方針について説明する黒田総裁
(撮影：野瀬勝一)

に沿って気候変動に関する取り組みを進めるため、包括的な取り組み方針を決定し、七月に公表しました。

取り組み方針では、(1) 金融政策、(2) 金融システム、(3) 調査研究、(4) 国際金融、(5) 業務運営、情報発信の分野において、各種の施策を実施することとしています。詳細については、日本銀行ホームページに新たに設置した専用ページ「気候変動」をご覧ください。

日本銀行は、今後も、気候変動に関する情勢変化を適切に把握するとともに、各種の施策について、不断に検討を重ね、対応していく方針です。



第二回情報セキュリティ・シンポジウムをオンライン開催

▼金融研究所情報技術研究センター（CITECS）は、金融業界が情報化社会において直面する新たな課題に適切に対処していけるよう、さまざまな取り組みを行っています。こうした取り組みの一つとして、二〇二一年九月十日、「スマートフォン利用にかかるセキュリティ」をテーマとするオンラインシンポジウムを開催しました。参加者は、情報セキュリティ技術に関わる金融機関関係者やフィンテック事業者など、約二〇〇名に上りました。

▼シンポジウムでは、スマートフォン上で提供される金融サービスが抱えるリスクや、こうしたリスクへの対応策、より高いセキュリティを実現するための技術動向について、講演とパネル・ディスカッションを行いました。

▼四件の講演では、生体認証の

活用、マルウェア対策、カード認証技術のスマートフォンへの搭載、スマートフォン上でサービスを提供する際のリスク管理が紹介されました。パネル・ディスカッションでは、四名の外部有識者によって、パソコンの利用を前提としたサービスとの違い、金融サービスにおける利便性とセキュリティのバランス、サービス連携に伴うリスク、迅速かつセキュアなソフトウェア開発の可能性について議論が交わされました。

▼本シンポジウムの模様などは、日本銀行金融研究所ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。



第二回「中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会」を開催

▼日本銀行は、昨年十月に「中央銀行デジタル通貨（CBDC）に関する取り組み方針」を公表したあと、この方針に沿って、実証実験を行うなど、より具体

的・実務的な検討を進めていきます。

▼その際には、幅広い関係者と協力し、さまざまな知見を今後の検討に活かしていくことが重要と考えられています。こうした認識に基づき、日本銀行は、民間事業者や関係当局を参加者とする「中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会」を本年三月に設置しました。

▼十月十五日に、二回目の連絡協議会を開催しました。そこでは、①本年四月に開始した実証実験の第一段階である「概念実証フェーズ1」の進捗状況、②来年度に開始する「概念実証フェーズ2」の概要、③実証実験に関連する論点について説明が行われ、参加者との意見交換が行われました。

▼①では、複数の設計パターンの概要や特徴点、実機検証・机上検証のポイントについて、②では、「概念実証フェーズ2」の目的や主な検証項目について、説明が行われました。③では、CBDCと他の決済手段と

の関係やCBDCエコシステム内の役割分担などについて、議論が行われました。

▼日本銀行では、現時点でCBDCを発行する計画はありませんが、決済システム全体の安定性と効率性を確保する観点から、今後のさまざまな環境変化に的確に対応できるよう、しっかりと準備を進めていく方針です。連絡協議会の説明資料や議事概要を含め、関連資料については、日本銀行ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

金融経済教育推進会議がeラーニング講座を開講

▼金融経済教育推進会議（事務局：金融広報中央委員会）（注1）は、二〇二一年十一月二十五日に、eラーニング講座「マネビタ

（注1）わが国の金融経済教育に関する諸課題への取り組みを審議することを目的として、二〇一三年六月に設置された会議。同会議の事務局を務める金融広報中央委員会の事務局は日本銀行情報サービス局内に設置。

編集後記

■今号の対談相手は、無名のテスト生からプロ野球・阪神の不動の四番打者にまで上り詰めた掛布氏です。もっとも、彼はご自身の努力について「やらなければならない準備を当たり前前にしている、それだけ」と言い切ります。インタビュー相手の小巻氏も、サンリオ関連会社に40代で復職し、赤字続きだったテーマパーク・ピューロランドを社長として黒字化させたにもかかわらず、「私がやったのは『みんなで話してみよう』という、ただそれだけ」と断言しています。

■お二方とも自分のすごさを言い募らない点で共通しています。そう言えばお二人ともインタビュー中、笑顔を絶やしませんでした。謙虚で明るいことは一流になるための必要条件のように思えました。

■本年11月の新五百円貨の発行に続いて、2024年度上期をめぐり新紙幣の発行が予定されています。こうした改鋳・改札を巡る日本銀行発券局の奮闘を今号の FOCUS BOJ では紹介しました。身近な貨幣、紙幣についての未知のストーリーをご堪能いただけましたでしょうか。（渡邊）

【アンケート募集中】

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。

日本銀行のホームページからもご回答いただけます。

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(https://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<https://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2021年冬号
編集・発行人 渡邊昌一
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎ 03-3277-1609



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 文唱堂印刷株式会社
禁無断転載



「人生を豊かにするお金の知恵」を開講しました（二〇二二年三月末まで受講を受付中）。

金融経済教育に関わる官庁や団体が連携して制作したという点で初の動画教材で、金融リテラシーに関する基礎的な内容を網羅しています（注2）。各官庁・団体の専門家が講師を務めます。一回の講義は10〜15分程度。スマートフォンからの視聴も想定した画面構成です。

人生に不可欠なお金の知恵をこの講座から身に付けてほしい」という願いを込めています。

▼「人生100年時代」における夢や目標の実現のために、ぜひ、本講座を受講してみてください。

本講座にご興味のある方は、左のQRコードからgoooo（注3）の本講座のページにアクセスし、ご確認ください。



（注2）講座の分野と担当官庁・団体

- ・金融と経済を学ぶ…金融庁、金融広報中央委員会
- ・ライフプランを描く…日本FP協会
- ・お金を借りる…全国銀行協会
- ・お金を増やす…日本証券業協会、東京証券取引所、投資信託協会
- ・リスクに備える…生命保険文化センター、日本損害保険協会
- ・トラブルを避ける…消費者庁

（注3）株式会社ドコモgooooが運営する、無料でeラーニング講座を受講できるWebサイト。